

奈良市教育委員会 教育総務部

文化財課埋蔵文化財調査センター

電話 0742-33-1821

## 富雄丸山古墳の墳丘測量調査成果について ～国内最大の円墳の可能性～

大型円墳としては、現在埼玉県の丸墓山古墳（直径 105m）が最大とされていますが、今回富雄丸山古墳の詳細な測量調査を実施したところ、3 段築成の円墳であることが判明、直径が 110m 前後と、丸墓山古墳を上回る「国内最大の円墳」として復元できる可能性があることがわかりました。あわせて、北東側に「造り出し」(※)があることも、改めて確認ができました。

前方後円墳や方墳など、他の墳形での国内最大規模古墳は大阪府、奈良県にあるものの、「国内最大の円墳」はなく、富雄丸山古墳は本市が「古墳文化の中心地にある」ことを示す、非常に意義深いものです。

現在、本市では観光資源の創出に取り組んでいるところですが、富雄丸山古墳は、本市西部地域の魅力創出、地域活性化とともに、本市の文化・観光面での発展に大きく寄与するものと考えています。

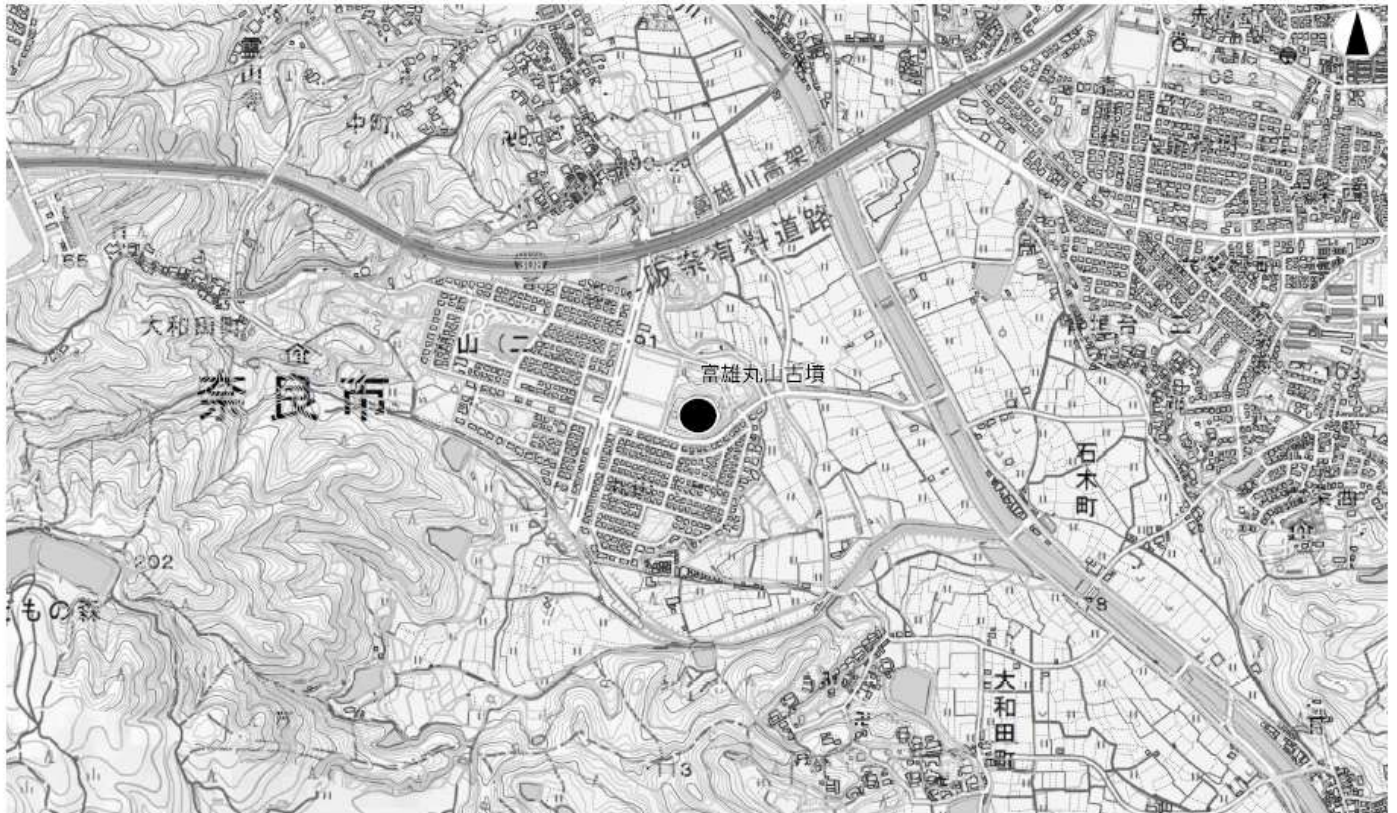
来年度からは、発掘調査を公開で行うなど、観光資源としてだけでなく、古代の歴史に触れる体験学習など教育資源としても富雄丸山古墳の活用を図っていきます。

※「造り出し」…墳丘最下段に付設された方形の低平な張り出し部分（別紙 2 参照）

### 【今回調査の概要】

- 1 所在地 奈良市丸山一丁目 1079 番地の 239（丸山第 1 号緑地）
- 2 調査期間 平成 29 年 5 月 22 日～平成 29 年 8 月 31 日
- 3 調査目的 富雄丸山古墳調査活用計画策定のための墳丘測量調査
- 4 調査方法 航空レーザによる古墳の 3 次元計測
- 5 測量面積 約 20,267 m<sup>2</sup>

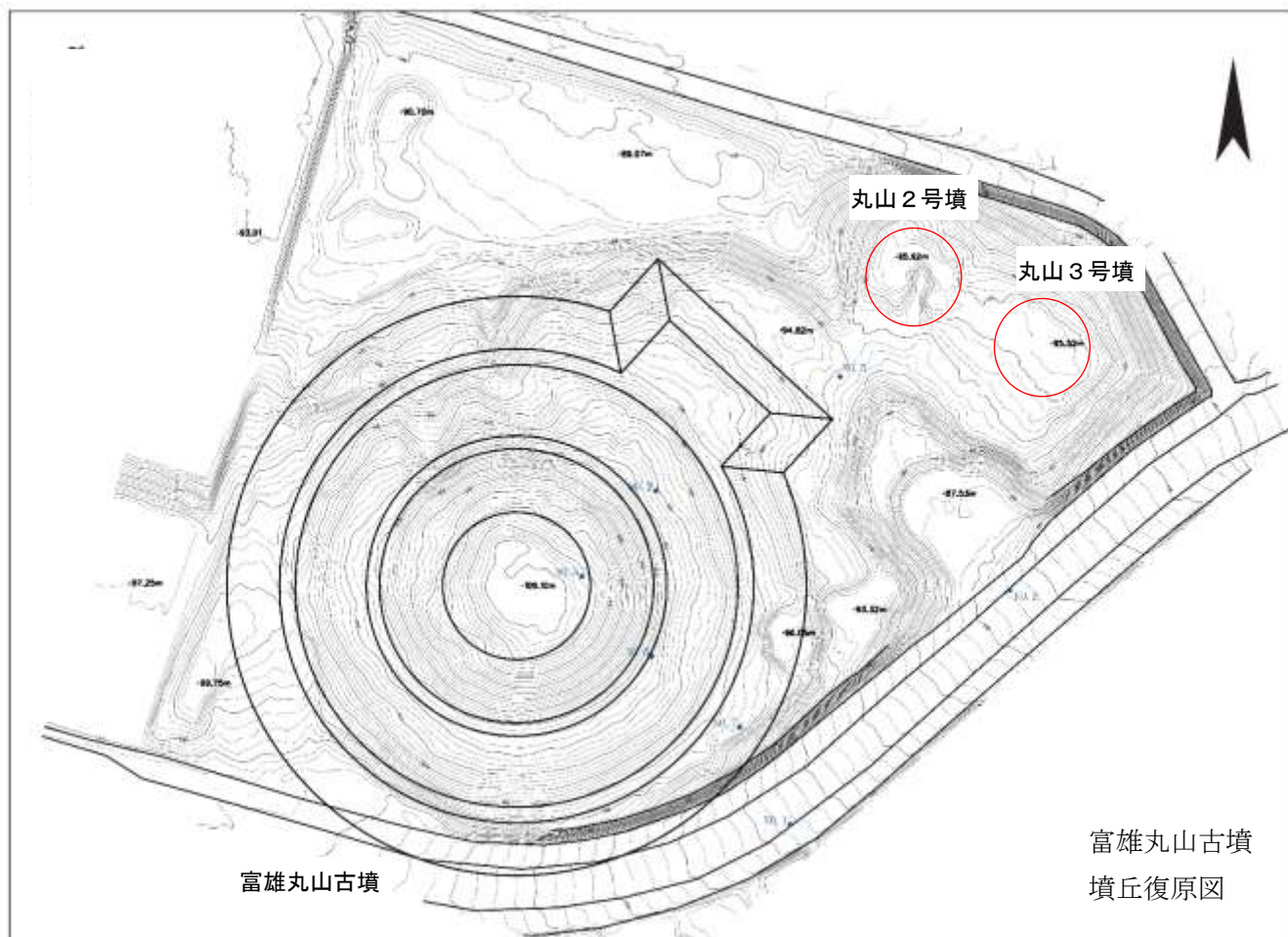
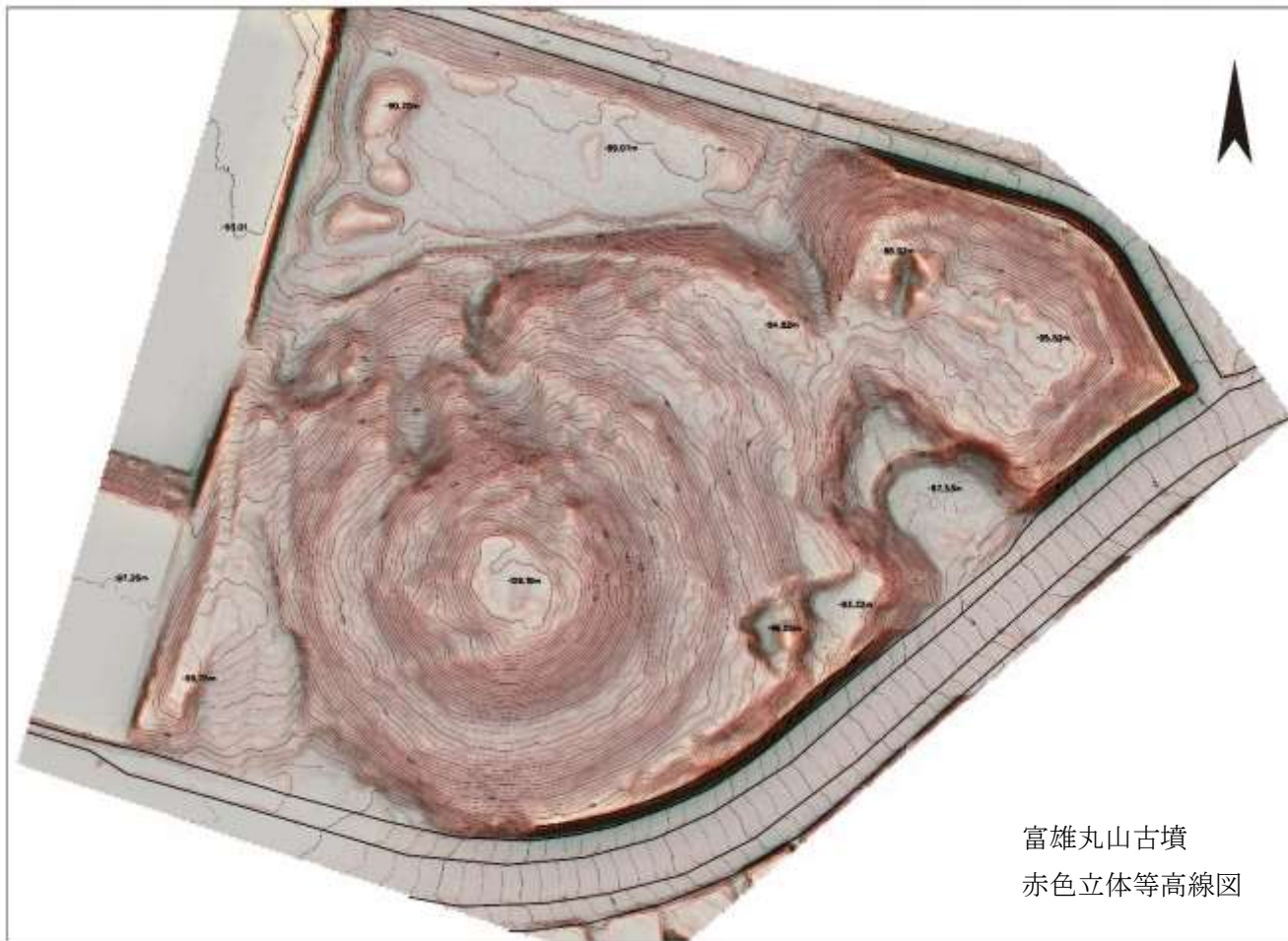
## 富雄丸山古墳 位置図



## 富雄丸山古墳周辺航空写真（南西から）







## 「富雄丸山古墳」に関するこれまでの経緯

### ▶宅地開発時にも重要視されていた「富雄丸山古墳」

富雄丸山古墳は、本市西部に位置し住宅地として開発がされたエリアにありますが、昭和47年の発掘調査でこの古墳の重要性が確認され、宅地開発で周辺地形は大きく変わるものの、東側の丸山2・3号墳とともに現状保存されました。

### ▶「4世紀後半築造」と推定、国の重要文化財も出土

富雄丸山古墳の築造時期は、4世紀後半（古墳時代前期後半）と推定されています。

明治時代に石製品を中心とした多くの副葬品が出土し、国の重要文化財（京都国立博物館蔵）に指定されています。また、三角縁神獣鏡3面（天理大学附属天理参考館蔵）もこの古墳から出土したと伝えられ、墳丘には埴輪が立て並べられています。

### ▶「国内最大級」を裏付ける調査に

昭和47年に墳丘の測量調査と墳頂部埋葬施設（粘土槨）の発掘調査が橿原考古学研究所によって行われ、「直径86mの円墳」と報告されました。

その後、昭和57年に墳丘の一部が追加調査されて、「北東側に造り出しが取り付く直径102m前後の円墳」となる可能性が指摘されたものの、その詳細は不明のままでした。

そこで、今後の調査活用計画を検討するため、「航空レーザによる古墳の3次元計測調査」を今年度実施し、「さらに大きい3段築成の円墳」となることが判明しました。

今回調査の測量図から「直径110m前後に復元できる可能性があること」、また、昭和57年の調査結果にある「墳丘の北東側に造り出しが取り付くこと」を再確認しました。

現在国内最大規模の円墳とされる埼玉県丸墓山古墳（直径105m）を上回る、「国内最大の円墳」として復元できます。

### ▶今後の活用に大きな期待

調査から45年が経過し、古墳には雑木が生い茂って、残念ながら今は容易に立ち入ることもできない状態となっていますが、発掘調査を実施して墳丘の規模や構造を解明し、市西部地域の文化遺産活用に向けて取り組んでいく予定です。

# 主な大型円墳の規模一覧

別紙 1

	古墳名	所在地	直径 (m)	全長 (m)	高さ (m)	造出し	時期
1	富雄丸山古墳	奈良県	110	120?	14.3	○	4世紀後半
2	丸墓山古墳	埼玉県	105	105	18.9	×	6世紀前半
3	高山塚古墳	茨城県	100	100	10.5	×	5世紀前半
4	小盛山古墳	岡山県	95	108	14	○	4世紀後半
5	甲山古墳	埼玉県	90	90	11.3	×	6世紀後半
6	茶すり山古墳	兵庫県	90	90	18	×	5世紀前半
7	磯浜車塚古墳	茨城県	88	88	13	×	5世紀前半
8	近内罐子塚古墳	奈良県	85	85	12.5	×	5世紀前半
9	壬生車塚古墳	栃木県	84	84	11	×	7世紀前半
10	下石橋愛宕塚古墳	栃木県	82	84	8	○	7世紀初め

## 古墳時代年表と富雄丸山古墳の築造時期

西暦	区分	できごと	主な古墳	富雄丸山古墳の時期
250	前期	この頃、卑弥呼死去 奈良東南部に王陵築造	箸墓古墳 大和・柳本古墳群	
300				
400	中期	奈良北部に王陵築造 大阪平野へ王陵が移動	佐紀古墳群 百舌鳥・古市古墳群	<b>富雄丸山古墳</b>
		倭の五王が中国へ遣使 雄略天皇即位 (457)	応神天皇陵古墳 仁徳天皇陵古墳	
500	後期	継体天皇即位 (507) 仏教伝来 (538)	今城塚古墳 五条野丸山古墳	
600		推古天皇即位 (592)		

## 埋葬された人の権力の象徴か ～「造り出し付き円墳」と「帆立貝式（形）古墳」～

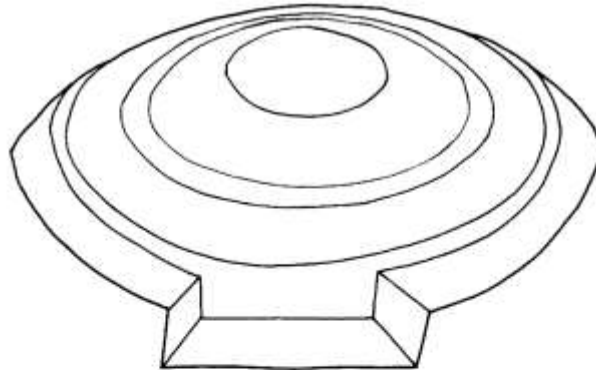
墳丘最下段に付設された方形の低平な張り出し部分を「造り出し」と呼んでいます。前方後円墳のくびれ部付近に設けられることが多く、祭祀空間として機能したようです。これと同じ特徴を有する方形の張り出しが円墳に取り付いたものを「造り出し付き円墳」と呼びます。

一方、前方部が短くて小さい形態の前方後円墳を帆立貝に似ているところから「帆立貝式古墳」と呼び分けています。通常の前円後円墳と比べて前方部が著しく小さいために、古墳の築造時に何らかの規制が働いているのではないかと考えられています。

なお、造り出しと著しく短小な前方部の規模が近似するような例があるため、両者の区別は必ずしも明確ではなく、研究者によって判断が異なる場合もあります。

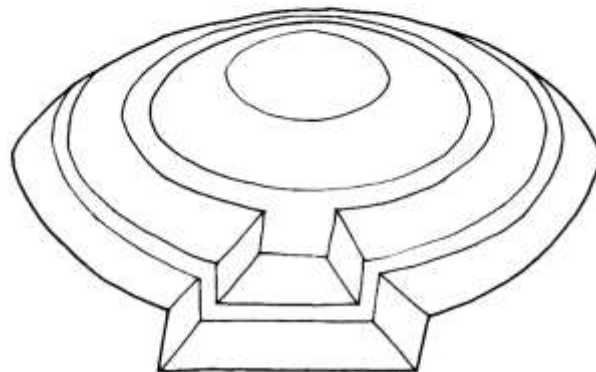
前円後円墳を築造できる首長と大型円墳・帆立貝式古墳を築く首長に区別されていたとする見解や中小首長が帆立貝式古墳・円墳・方墳を営んだと考える見解などがあります。

造り出し付き円墳



造り出し

帆立貝式古墳



短小な前方部